

避難住民の帰還に協力

純真学園大 福島・広野町と協定

純真学園大(福岡市南区)は11日、東京電力福島第1原発事故で一時、全住民が避難した福島県広野町と放射性物質の測定や人体・環境への影響調査および連携協力に関する協定を締結した。

原発事故では同大の新井正一教授(放射線技術科学)が2011年8月から放射性物質除染アドバイザーとして町内の除染活動に協

力。同年9月に町の緊急避難準備区域指定が解除された後も、看護学科や検査科



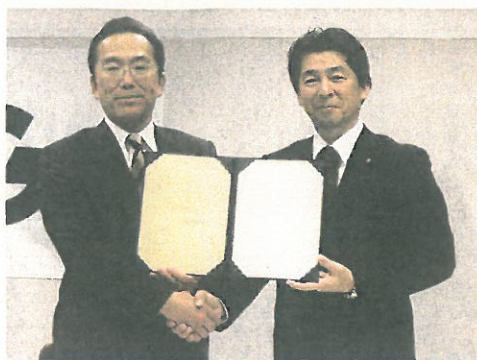
連携協定の締結書を手にする福田庸之助学長(右)と遠藤智町長

学科の教員と学生が同町を訪れ、公園や学校の放射線量の測定や住民の健康調査などを行っている。

同町は帰還した住民の割合は今春、8割になる見込み。この日、同大であった締結式に出席した遠藤智町長は「帰還が予想より早く進んだのは純真学園大の協力のおかげ」と感謝した。協定では住民の健康調査の継続とともに、若者の人材育成や教育でも連携を深める。同大の福田庸之助学長は「微力でも復興に力添えできれば」と語った。

広野町、純真学園大と協定

放射性物質測定や影響調査



広野町と純真学園大(福岡市)は11日、放射性物質の測定や、人体と環境への影響調査について協力するため、連携協定を結んだ。

放射線科学を専門とする同大の新井正一教授が2011(平成23)年6月、文部科学省の調

▲協定書を取り交わす遠藤町長と
福田学長

査で同町を訪れ、土壌の汚染状況などを調べた。新井教授は昨年3月まで町の除染アドバイザーを務め、その後も学生と共に町内で調査を続けている。相互の交流を発展させる目的で、協定を取り交わした。

締結式は同大で行われ、遠藤智町長と福田庸之助学長が協定書に署名した。遠藤町長はこれまでの支援に謝意を示し「協定により双方が一層発展していくことを期待したい」と述べた。

福田学長は「福島県や広野町の現状をより深く理解する必要がある。微力だが復興に向けて、できることを協力していきたい」とあいさつした。

2017年(平成29年)1月17日(火曜日)

福島

原発事故影響調査へ連携

広野町、純真学園大と協定

放射性物質を測定



純真学園大学と広野町との放射性物質の測定及び人体・環境への影響調査及び連携協力に関する協定締結式

協定書を取り交わし握手する遠藤町長(左)と福田学長

とがきっかけ。町は新井教授に同年八月から昨年三月まで町除染アドバイザーを委嘱した。その後も新井教授は学生と共に何度も町内を訪れており、町と大学との連携を一層強化するため協定を結んだ。

遠藤町長は「福岡市の同大を訪れた。遠藤町長と福田庸之助学長が協定書を確認、署名し取り交わした。

遠藤町長はこれまで「協定により双方がより発展していくことを期待したい」とあいさつした。福田学長が「広野町の現状をより深く理解し、復興に向けて微力ながらできることを協力したい」と話した。

広野町は十一日、福岡市の純真学園大と「放射性物質の測定と人体・環境への影響調査、連携協力に関する協定」を締結した。

町と同大のつながりは、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故

故後の平成二十三年六月、同大保健医療学部

放射線技術科学科の新井一教授が土壌調査のため町を訪問したこ